

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59-177514

① Int. Cl.³

B 60 J 7/14

B 62 D 33/04

識別記号

庁内整理番号

6927-3D

6631-3D

③ 公開 昭和59年(1984)11月27日

審査請求 有

(全 3 頁)

⑤ 天蓋開放式バン型車両

② 実 願 昭58-72447

② 出 願 昭58(1983)5月17日

② 考 案 者 近藤正博

石岡市大字柏原17-3 東部フル

ハーフ株式会社石岡工場内

⑦ 出 願 人 日本フルハーフ株式会社

東京都千代田区神田錦町3丁目
7番地2

⑦ 出 願 人 東部フルハーフ株式会社

東京都千代田区神田神保町1丁
目1番地

⑦ 代 理 人 弁理士 大橋勇

⑥ 実用新案登録請求の範囲

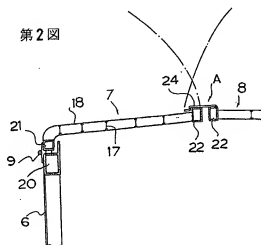
後部に一對の扉を有するバン型車両Vの天井部がその長手方向略中央において合さるよう側壁上端縁に枢支されている開閉可能な一對の屋根7、8を有し、その開閉は前記バン型車両の前後壁上に設置された開閉装置により、行うようにしたことを特徴とする天蓋開放式バン型車両。

図面の簡単な説明

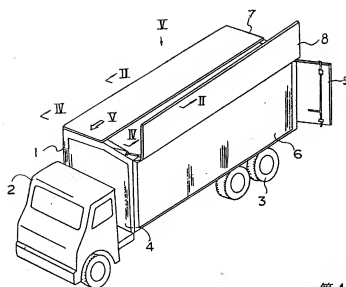
第1図は本考案に係るバン型車両の斜視図。第2図は第1図のII-II矢視断面図。第3図は同じくIII-III矢視断面図。第4図は屋根の中央合せ部の詳細図の第一実施例、同じくは第二実施例。第5図は第1図のV矢視部拡大斜視図。

図において、V…バン型車両、1…荷箱、2…運転台、3…車輪、4…前壁、5…扉、6…側壁、7、8…屋根、9…螺番、10…油圧シリンダー、10a…シリンダロッド、11…(前後壁上部の)凹溝、12…支持体、13…ピン、14…ロッド、15…ローラ、16…レール、17、17a…骨材、18…(アルミ等の)シート、19…(水切り用)立上り部、20…上部長手方向骨材、21…長手方向基部骨材、22…(長手方向の)中央部骨材、23…(前後の)枠体、24…覆板、24a…垂直片、25…樋部材、26…バツキン、27、28…(L状の)覆板、29…バツキン。

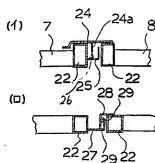
第2図



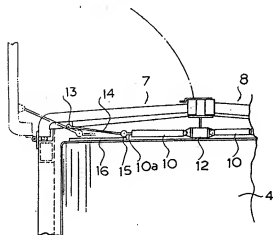
第1図



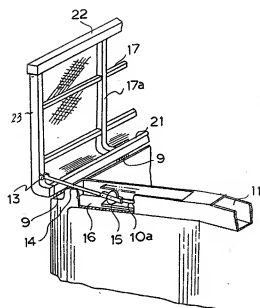
第4図



第3図



第5図



⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭59—177514

⑫ Int. Cl.³

B 60 J 7.14

B 62 D 33.04

識別記号

庁内整理番号

6927—3D

6631—3D

⑬ 公開 昭和59年(1984)11月27日

審査請求 有

(全 頁)

⑭ 天蓋開放式バン型車両

⑮ 出 願 人 日本フルハーフ株式会社
東京都千代田区神田錦町3丁目
7番地2

⑯ 実 願 昭58—72447

⑰ 出 願 昭58(1983)5月17日

⑱ 出 願 人 東部フルハーフ株式会社
東京都千代田区神田神保町1丁
目1番地

⑲ 考 案 者 近藤正博

石岡市大字柏原17—3 東部フル
ハーフ株式会社石岡工場内

⑳ 代 理 人 弁理士 大橋勇

明 細 書

1. 考案の名称

天蓋開放式バン型車両

2. 実用新案登録請求の範囲

後部に一對の扉を有するバン型車両(V)の天井部がその長手方向略中央において合わさるよう側壁上端縁に枢支されている開閉可能な一對の屋根(7,8)を有し、その開閉は前記バン型車両の前後壁上に設置された開閉装置により、行うようにしたことを特徴とする天蓋開放式バン型車両。

3. 考案の詳細な説明

本考案は天蓋開放式バン型車両に関するものである。更に詳しくいえば天蓋を両側方に開放してその上方から荷物を搬出入できるようにした天蓋開放式バン型車両に関するものである。

従来バン型車両は天蓋と側壁が固定されており、荷物の搬出入は後面の観音扉付開口からおこなわれていた。この為荷物の搬出入時におけるバンの室内にある荷物の移動はすべて人手にたよる外はなく、このため荷物の搬出入に時間を要した。そ

の為大量の荷物をピストン輸送するようなどころでは輸送効率が低下するという欠点があった。

本考案は叙上の点を改良すべく考案されたもので、クレーン等の荷役機械を使用して、一度に大量の荷物を天井側から搬出入でき、輸送効率を向上させることができる天蓋開放式バン型車両を提供するもので、以下図面を参照して詳細に説明する。

第 1 図は本考案の天蓋開放式バン型車両 V の斜視図である。バン型車両 V は荷箱 1、運転台 2、車輪 3 等から構成されている。荷箱 1 は、床（図示せず）、前壁 4、後部の一对の扉 5、5、左右の側壁 6、6、中央長手方向において二分割された屋根 7、8 で構成されている。そして屋根 7、8 は側壁 6 の上端縁で回動可能に蝶番 9 により枢支されている。

10 は前記 7、8 を上方に開閉する為の油圧シリンドーで、荷箱の前・後壁上部凹溝 11 内の中央に設けた支持体 12 にその一端が枢支され、他端が前記屋根の基部にロッド 14 を介しピン 13

で枢支されている。15は油圧シリンダーのロッド10aの先端にとりつけられたローラで、レール16上を転動する。

屋根7, 8はその四周が枠組され、その縦横方向に骨材17で補強されて、アルミ板等のシート18が張設されている。

第2図は、第1図のII-II矢視図である。側壁6の上端縁は水切り用の立上り部19を有する上部長手方向枠材20がとりつけられている。屋根7又は8は長手方向基部枠材21、同じく長手方向の中央部枠材22、前後の外枠23で囲繞した枠内を縦横の骨材17, 17aで補強し、アルミ等のシート18で覆っている。前記側壁6の上端縁と前記屋根7, 8とは蝶番9で、枢着されている。

第2図Aは左右の屋根7, 8の中央合せ部を示す。第4図(イ)を参照するに、相対する長手方向中央部枠材22, 22の一方(本図では右側)の枠材22上にT型の覆板23が固着されており、他方の枠材22(本図では左側)の側面にL状の樋部材25が固着されている。そして、前記左右

の屋根 7, 8 が閉じた時、前記 T 型覆板 24 の垂直片 24a が樋部材 25 内に嵌入されるようになっている。なお 26 は前記 T 型覆板 24 の垂直片 24a の自由端に固設したパッキンである。

第 4 図(ロ)は上記、左右屋根 7, 8 の合せ部の他の実施例である。本例では L 状の覆板 27, 28 が対向して両長手方向中央部梓材 22, 22 に固着されている。そして、前記左右の屋根 7, 8 が閉じた時、一方の L 状の覆板 27 で形成する溝内に、他方の L 状の覆板 28 の垂直片が嵌入されるようになっている。29 はパッキンで、両屋根 7, 8 が中央部で閉じたとき雨水が室内に浸入しないようになっている。

第 5 図は第 1 図の V-V 矢視図で、油圧シリンダー 10 の取付構造を示す。油圧シリンダー 10 は左右対称に設けられているので説明は片側のシリンダーについてのみ説明する。油圧シリンダー 10 は一端が前後壁上部の凹溝 11 内の底部中央に固着された支持体 12 に、他端のシリンダロッド 10a の先端には、ローラ 15 がとりつけられ、

さらにロッド 14 がピン着されている。ロッド 14 の先端は屋根 7 の基部に枢着されている。ローラ 15 は案内レール 16 上を前記シリンダー 10 の伸縮時、レール 16 上を転動し案内される。

以上の構成である一対の天井屋根 7, 8 が油圧シリンダー 10 で上方に開閉できる構造としたので、クレーン等の荷役機械を使用し、上方から大量の荷物を一度に搬出入することができ、荷役作業の効率化に寄与できるものである。又前記、二分割された屋根 7, 8 の中央合せ部を完全に水切り構造としたので、雨水等の室内浸入が阻止でき、バン型車両としての機能を維持することができる。さらに又、本考案は後部に観音扉 5, 5 を設けているので、従来のバン型車両としても使用できるものである。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案に係るバン型車両の斜視図。

第 2 図は第 1 図の II - II 矢視断面図。

第 3 図は同じく III - III 矢視断面図。

第 4 図(イ)は屋根の中央合せ部の詳細図の第一

実施例、同じく(ロ)は第二実施例。

第5図は第1図のV矢視部拡大斜視図。

図において；

V パン型車両

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 荷 箱 | 2 運転台 |
| 3 車 輪 | 4 前 壁 |
| 5 扉 | 6 側 壁 |
| 7,8 屋 根 | 9 螺 番 |
| 10 油圧シリンダー | 10a シリンダロッド |
| 11 (前後壁上部の)凹溝 | |
| 12 支持体 | 13 ビ ン |
| 14 ロッド | 15 ローラ |
| 16 レール | 17,17a 骨材 |
| 18 (アルミ等の)シート | |
| 19 (水切り用)立上り部 | |
| 20 上部長手方向枠材 | |
| 21 長手方向基部枠材 | |
| 22 (長手方向の)中央部枠材 | |
| 23 (前後の)外枠 | 24 覆 板 |
| 24a 垂直片 | 25 樋部材 |

26 パッキン

27, 28 (L状の) 覆板

29 パッキン

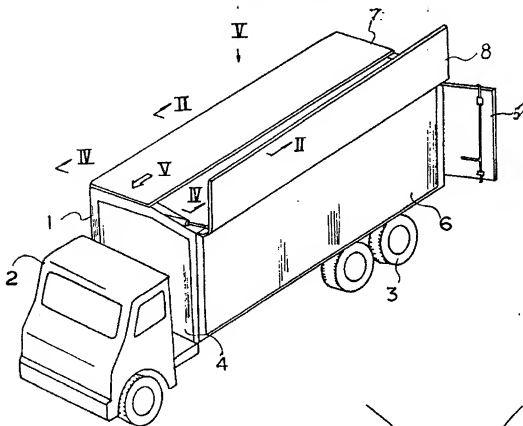
以 上

出 願 人 日本フルハーフ株式会社

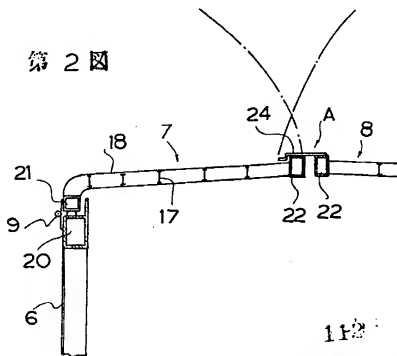
東 部 フ ル ハ ー フ 株 式 会 社

代 理 人 弁 理 士 大 橋 勇

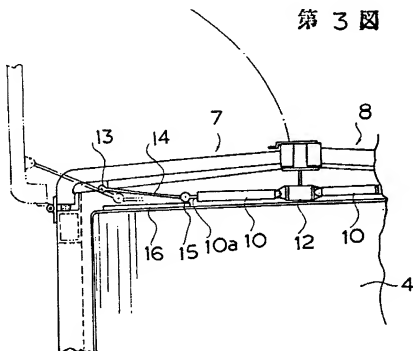
第 1 図



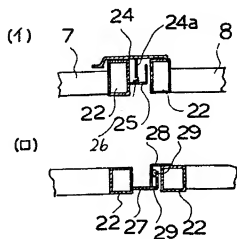
第 2 図



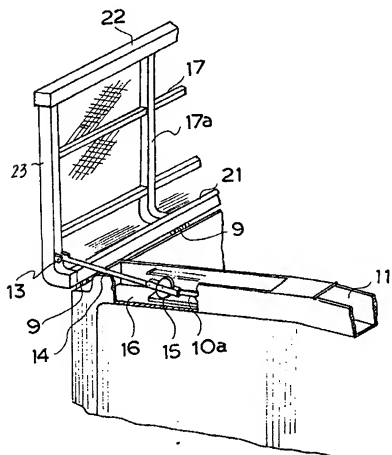
第 3 図



第 4 図



第 5 图



1.14

実開 59-17751 4